

解禁 7月24日(水) 17時00分 以降

平成25年7月23日(火)
国土交通省関東地方整備局
京浜港湾事務所

記者発表資料

平成24年度優良工事等の事務所長表彰について

国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所は、平成24年度に完了した工事の中で特に優れた成績を収めた工事、技術者等について、平成24年度事務所長表彰を下記により執り行います。

- 日 時：平成25年7月24日(水) 16時00分～17時00分
- 場 所：京浜港湾事務所 2階 第2会議室
- 表彰件数：優良工事・・・・・・・・・・ 1件
優良業務及び優秀技術者・・・・・・・・ 2件及び2名

発表記者クラブ
竹芝記者クラブ、神奈川県政記者クラブ 神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ、川崎記者クラブ

問い合わせ先				
所属	国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所			
氏名	副所長	戸部 一徳	かずのり	(内 102)
	統括建設管理官	近藤 隆道	こんどう たかみち	(内 103)
	第一工務課長	菊池 ひとし	きくち	(内 300)
	企画調整課長	三上 晃	みかみ あきら	(内 330)
電話	045-226-3763			
FAX	045-226-3756			

平成24年度優良工事等の表彰について

1. 概要

平成24年度に京浜港湾事務所で完成した工事及び業務の中から、その施工及び業務への取り組みが優秀で他の模範となる工事及び業務を選定し、当該業者及び技術者を表彰することにより建設における技術の向上及び円滑な事業推進に資することを目的とします。

2. 平成24年度優良工事等 [事務所長表彰] (別紙参照)

- ・ 優良工事 : 1件
- ・ 優秀工事技術者 : 該当なし
- ・ 優良下請企業及び優秀下請技術者 : 該当なし
- ・ 優良業務及び優秀技術者 : 2件及び2名

3. 工事の概要及び表彰理由 [事務所長表彰] (資料参照)

4. 表彰式 [事務所長表彰]

表彰式は、事務所長はじめ所内幹部が出席して、優良工事受賞の1社と優良業務受賞の2社及び優秀技術者受賞の2名が出席し、事務所長から表彰状が授与されます。

別紙

平成24年度優良工事等

1. 事務所長表彰

(1) 優良工事

工事名	工事場所 工種	業者名 住所
横浜港臨港道路 南本牧ふ頭本牧線 仮設栈橋・栈台築造工事	横浜港 港湾土木	<small>わかちくけんせつ</small> 若築建設(株)横浜支店 神奈川県横浜市 中区尾上町1-6

(2) 優秀工事技術者

該当なし

(3) 優良下請企業及び優秀下請技術者

該当なし

(4) 優良業務及び優秀技術者

業務の名称	優秀技術者 管理技術者 又は 実務担当技術者	業者名 住所
横浜港南本牧地区 岸壁(-16m)(耐震) 液状化判定業務	<small>すながわ のぶお</small> 砂川 伸雄 管理技術者	基礎地盤コンサルタンツ(株) 横浜支店 神奈川県横浜市 中区長者町5-85
横浜港 海域環境改善監視等業務	<small>たなか ゆうまく</small> 田中 裕作 管理技術者	一般財団法人 みなと総合研究財団 東京都港区虎ノ門3-1-10

資料

国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所
平成24年度優良工事等の事務所長表彰について
記者発表資料（参考資料）

平成24年度
優良工事
優良業務及び優秀技術者
事務所長表彰の概要及び表彰理由

平成25年7月24日

国土交通省関東地方整備局
京浜港湾事務所

ふりがな 業者名	わかちくけんせつ かぶしきがいしゃ よこはましてん 若築建設株式会社 横浜支店		
ふりがな 技術者名		職種	
ふりがな 工事名	よこはまりんんこうどうろ みなみほんもく ほんもくせん かせつさんばし さんだいちくぞう こうじ 横浜港臨港道路南本牧ふ頭本牧線 仮設栈橋・栈台築造工事		
工期	(自)	平成24年6月5日	(至) 平成25年2月22日
事務所名	京浜港湾事務所		
工事概要	横浜港の南本牧ふ頭、本牧ふ頭及び大黒ふ頭におけるコンテナ輸送効率化を図るために臨港道路の整備を進めている。本工事は、南本牧側橋梁下部工の施工に先立ち、仮設栈橋・栈台設置工を施工するものである。		
表彰理由 【工事】	<p>本工事の施工場所は、南本牧運河に位置していることから、海上作業においては航行船舶への影響を最小限とすることが求められていた。</p> <p>また、杭の施工にあたっては、打設精度が後に続く作業であるジャケットの設置精度に影響するため、精度よく施工する必要があった。更に、杭を打設する水深は21mと深く、支持層までの深さは41mあるため、杭の位置決めや傾斜の補正に高度な技術を要求される工事であった。</p> <p>航行船舶への影響が懸念されるジャケット設置にあたっては、ジャケットを輸送してきた大型台船と据え付け用起重機船とのジャケット受渡において、大型台船を別のクレーン台船により移動・位置決めすることで作業時間の短縮を図ったことにより、航路への影響を最小限に抑えることに努めた。</p> <p>また、杭の打設位置の変位及び傾斜を極力抑制するため、自動追尾トータルステーションとGPSにより計測することで、海底での打設位置の精度を向上させた。</p> <p>また、周辺工事(最大3工事)との綿密な工程調整を行うことで、作業が交錯することなく、全工程において、無事故・無災害で完工することができた。</p> <p>以上のことから、優良工事として表彰するものである。</p>		
表彰理由 【技術者】			



完成



ジャケット据付状況

優良業務及び優秀技術者事務所長表彰の概要及び表彰理由

業務番号-1

ふりがな 業者名	きそじばん かぶしがいいしゃ よこはましてん 基礎地盤コンサルタンツ株式会社 横浜支店		
ふりがな 技術者名	すなかわ のぶお 砂川 伸雄	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	よこはまこう みなみほんもくちく がんぺき たいしん えきじょうかはんていぎょうむ 横浜港南本牧地区岸壁(-16m)(耐震)液状化判定業務		
履行期限	(自) 平成24年11月15日 (至) 平成25年3月22日		
事務所名	京浜港湾事務所		
業務概要	<p>本業務は、横浜港南本牧地区の岸壁及び荷捌き地のコンテヤードを整備するため、約2haにも及ぶ広大な土地において、全34地点の土質調査(標準貫入試験、PS検層、土の繰り返し非排水三軸試験、静的コーン貫入試験等)を行い、地震時における岸壁部の二次元応答解析による残留変形量の算出及び荷捌き地の液状化の予測・判定を実施するものである。</p> <p>また、荷捌き地において、液状化対象層が確認されたため、一次元地震応答解析を行い各地点の沈下量を算出するとともに、これらの結果を踏まえた地盤改良工法の検討を実施するものである。</p>		
表彰理由	<p>本業務の土質調査範囲内においては、荷捌き地の載荷盛土材の撤去工事の施工が行われているとともに、載荷盛土の放置期間を確保していたため現地着手できる範囲が限られている等、調査実施をする上での制約が多くあった。</p> <p>この様な制約の中、広大な面積かつ撤去工事が実施されている環境下において、34地点の土質調査、室内試験、各解析を約4ヶ月間の短期間で進める必要があったことから、調査工程の短縮を図るため、施工手順の検討及び複数機材・人員を現地投入する等の工夫により短縮を図った。</p> <p>また、各解析に対しては、発注者が求めている事項を十分に理解した上で、時間を要する解析から優先して開始し、解析手法の考え方については、有識者へのヒアリングや文献収集等を積極的に実施する等、業務に対する前向きな姿勢が見られた。その結果として、全体工程に影響を与えないように調査・解析を終える事ができた。</p> <p>以上のことから、優良業務及び優秀技術者として表彰するものである。</p>		

優良業務及び優秀技術者事務所長表彰の概要及び表彰理由

業務番号-2

ふりがな 業者名	いっばんざいだんほうじん そうごうけんきゅうざいだん 一般財団法人 みなと総合研究財団		
ふりがな 技術者名	たなか ゆうさく 田中 裕作	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	よこはまこう かいいきかんきょう かいぜん かんしとうぎょうむ 横浜港海域環境改善監視等業務		
履行期限	(自) 平成24年4月20日 (至) 平成25年3月22日		
事務所名	京浜港湾事務所		
業務概要	<p>横浜港金沢地区に整備された人工浅場を対象として、平成22年度及び平成23年度に造成した砂泥性及び岩礁性藻場の生育状況を踏まえ、藻場の形成に必要な条件を検討し、藻場造成等による海域環境改善効果の検証を実施するものである。</p> <p>併せて、平成22年度に造成した藻場の育成状況及び水質、底質並びに生物調査等のモニタリングを行い、人工浅場造成後の生物相及び環境遷移状況等を把握することで、今後実施する人工浅場の造成による海域改善効果検討の基礎資料とするものである。</p>		
表彰理由	<p>本業務の目的である人工浅場造成による海域改善効果検討において、アマモの花枝採取や種子選別等のモニタリング調査の実施にあたり、次世代への海域環境改善の啓発に積極的に取り組んだ。</p> <p>また、海域改善に効果的な人工浅場造成の手法・留意点について、他の事例等も参考にしうえて簡潔に取りまとめるなど、基礎資料の作成に積極的に取り組んでいた。</p> <p>以上のことから、優良業務及び優秀技術者として表彰するものである。</p> <p>(効果的な人工浅場造成の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂泥性藻場(アマモ)においては、浚渫土砂による浅場の水深維持や発芽率の向上のための移植用粘土への腐葉土や肥料の混入 ・岩礁性藻場(アカモク)においては、アカモクの生残率の高い角の多い石やシート、ネットのような付着基質の設置 ・岩礁性藻場(ワカメ)においては、アカモク同様にシート、ネットのような付着基質の設置や食害生物(メジナ・イシガニ)による被食が少ない砂浜部に新たな基盤の創出 		